

【茗溪学園】筑波大学とのグローバル化推進協定締結 記者会見の主な内容

このたび筑波大学と茗溪学園がグローバル化推進における相互協力の協定を結んで頂きましたことは、筑波大学同窓会が、時代が変化しても世に必要な中等教育の在り方を探り、提案・試行し、その成果を普及していく教育実験校として設立しました本校のミッションを推進する上で、大変心強い支援を頂けたと深く感謝致します。

これまでも筑波大学からはスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の事業推進において、大変多くのご指導を頂き、またスポーツや芸術の部活動の発展や進路指導の面でも多大な支援を頂いて参りました。

今後一層、急展開していくことが予想される教育のグローバル化を見据え、茗溪学園は2016年に国際バカロレア（IBDP）の認定を受け、また世界各国より高等学校段階での多くの留学生を積極的に受け入れながら、日本の中等教育をどのように発展させていけるかという教育実験に挑んでおります。

創立以来40年間、海外帰国生受入校として本校が培ってきた海外校ネットワークと、日本の国立大学で最もグローバル化が進んでいる筑波大学のネットワークが接続することにより、人類の平和な未来に貢献できる内外の若者を育てるシステムがより強固に構築できると確信しております。

相互協力の協定により得られた成果は今後、大学や地域に広く還元し、学園としても精一杯貢献して参ります。引き続き今後ともご支援を頂けますよう、よろしくごお願い申し上げます。

令和元年7月25日

茗溪学園中学校高等学校
校長 田代 淳一